

「十二月二十七日」
あまつ日の
み冬来向ふ色さびし。
わが大君は
ものを思へり
（『海やまのあひだ』）
釈 遼空

国学院大学 令和5年12月20日(水) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
【発行】国学院大学 【編集】総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 【電話】03(5466)0130 【FAX】03(5466)0528

祭 儀 ■ 大祓 12月25日(月) 午後4時 3号館1階学生ホール ■ 歳旦祭 1月1日(月・祝) 午前11時 仮殿

研究者に聞く



限界集落に地方消滅――

「危機」だけが

農村のリアリティではない

観光まちづくり学部・松本貴文准教授

生活者の目線で、地域社会を研究する。文字にすると簡単なようだが、外部から切り取った視き見たりするだけではない、地域づくりにボジティブな影響を与えていくことができるような研究の在り方は、常に試行錯誤の中にある。松本貴文・観光まちづくり学部准教授もまた、そうしたトライを重ねる一人だ。

農村における伝統はもちろん、変化もまた、現場に足を運ばないと見えてこない。農村の地域社会における変化は、統計に表れるような高齢化や人口減少だけでなく、町内会・自治会など住民自治組織の役員選びから、その会費の徴収の仕方など、多岐にわたる。できるだけ、そこで暮らしている人たちの現実感覚に沿った研究をしていきたいと松本准教授は語る。

松本准教授が研究者の道を歩みだして以降は「限界集落」や「地方消滅」といった言葉が話題となるなど、地方や農村の高齢化や人口減少による消滅危機が強調されるようになった時期でもあった。もちろん過疎は重大な問題だが、生活全体を見れば、生きがいのある暮らしができて住み心地のよい地域という側面もあるのではないかと問いかける。外部から指摘するだけでは、すくい取れない生活のリアリティがある。

6・7面に関連記事

陸上競技部 箱根駅伝壮行会

「まだ見ぬ赤紫の快進撃、で頂上目指す」



東京箱根間往復大学駅伝競走が、令和6年1月2、3日に開催される。今回は記念すべき第100回大会となり、例年より3校多い23大学が出場し、激戦が予想される。国学院大学陸上競技部は令和5年10月の出雲駅伝で4位、11月の全日本大学駅伝で3位となり、好成績を収めた。また、前回大会で4位と、5年連続でシード権を獲得している。8年連続17回目の出場となる今大会で、同部は「つてっぺん」(まだ見ぬ赤紫の快進撃)をスローガンに掲げ、総合優勝を目標にする。

12月15日には渋谷キャンパスで壮行会が行われた。前田康弘監督が「今回は過去最強のメンバーがそろった。記念すべき第100回大会だが、これから開催される100回には全ての大会で出場し、本大会を国学院大学が主役になる足がかりとしたい」と決意を新たにし、伊地知賢造主将(健体4)が「一年間「つてっぺん」というスローガンを掲げ頑張ってきた。出雲駅伝、全日本大学駅伝では達成できなかったので、箱根駅伝では「つてっぺん」を獲得し、有終の美を飾りたい」と意気込みを語った。針本正行学長から伊地知主将に赤紫色の襷が激励とともに手渡された後に、全学応援団、吹奏楽部とサプライズゲストの本学神道文化学部の学生でもある歌手の相川七瀬さんより応援ソングが披露された。

K・DNA1面に関連記事

みはるかすもの

鍋料理が美味しい季節だ。自分で出汁をとるもよし、簡単な「鍋の素」を使うもよし。店の暖簾をくぐり、気心の知れた仲間と囲む鍋もまた格別だ。意外なことに鍋料理が生まれたのは、そんなに古いことではない。煮炊きをする調理器具としての鍋ならば土器・金属器の出現する時代までさかのぼれるかもしれないが、調理場から離れた食事の席で常に火にかけつつ食す鍋料理が生まれたのは江戸期のような。火の運搬・移動が可能な炭櫃や七輪などが普及し成立したといわれている。明治の世となり、近代化が進み肉食が広がるにつれ、新たな鍋料理「牛鍋」が流行した。牛鍋屋に集う

人々を描写した仮名垣魯文の『安愚楽鍋』が興味深いのは、それが戯画化された「雑談」であるからだ。鍋から上がる湯気の隙間から世相が見えるのは、いまも昔も変わらない。食が時代在先駆けることもある。「おひとりさま」の言葉が人口に膾炙するのは平成19(2007)年以降だが、12年から既にひとり鍋をめぐる書籍やレシピ本が出始めている。江戸期に「小鍋立て」は存在したが、現代人も鍋から新たな時代を迎えたということか。多様な具材を煮込むにぎやかさからか、ひとり鍋はどこか孤食から遠い。各自でひとり鍋をつつき「雑談」する動画配信者とそれを見る視聴者であれば、もはや疑似的な会食の姿だ。今晩もどこかでぐつぐつと音を立てているのは、人々が紡いできた機微なのかもしれない。

「考古学＋博物館」国大が先駆

下津谷氏、講演会で黎明期を回顧



国学院大学博物館の創設95周年・博物館改称10周年を記念した国学院大学研究開発推進機構主催の令和5年度公開学術講演会が11月18日、渋谷キャンパスで開催された。

「国学院大学における博物館黎明期―戦後間もなくの考古学資料室と考古学会―」と題して講演したのは、博物館と同じ昭和3年生まれで御年95

歳の下津谷達男氏(昭34修・67期博文他、元国学院大学栃木短期大学教授)。大学予科に入学した22年から30年代に至るまで、博物館が「考古学資料室」と呼ばれた時代に国学院大学の考古学を支えた大場盤雄博士や樋口清之博士らに薫陶を受けたエピソードや、登呂遺跡発掘調査の思い出も交えつつ、本学博物館と考古学会の歩みを紹介した。

本学博物館は樋口博士が寄贈した考古資料を中心に「考古学標本室」として誕生。「考古学資料室」「考古学資料館」と改めた後、平成25年に博物館として生まれ変わった。下津谷氏によると「神道を建学の理念とする大学のためGHQから目を付けられると思われたが、調査に訪れた担当者が資料室の充実ぶりを評価して存続が決まったと聞いた」という。

戦前の考古学研究では鳥居龍藏博士を中心とした「上代文化研究会」が機関誌『上代文化』を発行するなどしていたが、戦時中に第17輯で休刊。終戦後に大場、樋口両博士の指導を受け「国学院大学考古学会」と改称した上で復刊した第20輯の記念誌では下津谷氏も刊行に携わり、「費用捻出のため学術誌にそぐわない広告を取って先輩に叱られたり、不足分を補うのに当時の理事長に買い取ってもらったりした」と振り返った。

また、「初めて話すことだが」と前置きし、



三嶋の神々の物語が記された『三宅記』

「当時の樋口先生には講演依頼が相次いだだが、先生は謝礼の交渉になると『下津谷君に一任』というので困った。(下津谷氏の地元・千葉県の)野田の基準は知っていたので、先方に言い値を出させ、上乘せする形で交渉をまとめた」と紹介し場を和ませた。

一方で、資料室を中心に活動していた考古学会については、「縄文、弥生、古墳、歴史の4部会に分かれて活動し、地方から上京してくる先輩方から情報収集した。通信手段もままならない時代としては画期的であった」と証言。終戦直後に結成された東京学生考古学会でも本学が幹事校を務め、登呂遺跡発掘に際しては出土した木製品の保管を引き受け、現在も博物館の一角に展示していることを受け、「本学では考古学研究と博物館設置はセットでなければならぬ」と主張してきた。現在は博物館を持つ大学も増えているが、本学が先駆となった成果だ」と結んだ。

◆**笹生衛館長**
『日本書紀』は白鳳大地の浜からは都や有力寺社の

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**内川隆志副館長(文学部教授)**
利島は、その姿が神への供物を捧げる場所にふさわしい「神奈備」の島。沿岸で獲れる海の幸も黒潮がもたらす「神の恵み」にほかならない。「食文化」の探求からも伊豆の成り立ちが分かるのだ。12世紀以降に伊豆で天変地異が続くが、大量に出土した鏡からは都に做った祭祀が行われたことが窺える。

◆**深澤太郎教授(研究開発推進機構)**
富賀神社(三宅島)裏手の浜からは都や有力寺社の

◆**笹生衛館長**
『日本書紀』は白鳳大地の浜からは都や有力寺社の

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

第6回オール国学院親睦ソフトボール大会を開催



第6回となるオール国学院親睦ソフトボール大会が11月19日にたまプラーザキャンパスで開催された。当日は晴天に恵まれ、学校法人国学院大学の法人傘下校および学校法人国学院大学栃木学園の役教職員からなる8チームの選手が汗を流した。

開会式では、佐柳正三理事長より「各校からの役教職員が集った。この機会にぜひ交流を深めてほしい」と挨拶＝**写真**。始球式の佐柳理事長による好投で開幕し、各チームにおいて親交を深めながら合計12試合が行われた。優勝は国学院大学久我山中学高等学校と国学院大学附属幼稚園の教職員からなる久我山Aチームが飾った。

久我山中学高等学校保護者対象見学会を渋谷・たまプラーザ両キャンパスで初開催



国学院大学久我山中学高等学校の生徒の保護者を対象とした「国学院大学見学会」が11月30日、渋谷・たまプラーザの両キャンパスで初めて実施された。

当日は生徒の保護者と教職員ら約100人が渋谷キャンパスに来校した。渋谷キャンパスでは、本学文学部長の矢部健太郎教授＝**写真**＝が「国学院大学の特徴とは？」と題し、大学の歴史や学問的な背景について講演。入学課の職員からは本学での学びや支援体制についての説明を行った。続いて、学生アドバイザーの案内のもとキャンパスツアーを実施。保護者らが有栖川宮記念ホールや学術メディアセンターなどを見学し、学生たちとコミュニケーションをとりながら交流する姿が見られた。

昼食をはさんで午後はたまプラーザキャンパスへ移動し、各学部の特徴的な教室や施設を見学。初めて大学を訪問した父母らも多く、充実した様子で一日を終えていた。

タマサート大学と協定締結 まちづくりに焦点をあてた交流促進へ

令和5年12月、国学院大学はタイのタマサート大学と一般協定を締結する。期間は1年間で、教育・学術研究の交流促進を目的としている。今後、まちづくりに焦点をあてたスタディツアーの開催などに加え、交換留学の可能性も検討していく計画である。

タマサート大学はバンコクなどに4つのキャンパスを有する学生数4万人超の総合大学で、1934年に設立されたタイで2番目に古い国立大学。

「伊豆」と「三嶋神」に迫る ジオパーク認定5周年、国大博物館で特別展



伊豆大島の岩石標本

伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク認定5周年を記念した国学院大学博物館の特別展「三嶋の神のモノガタリ」焼き出された伊豆の島々」が9月23日、11月19日の日程で開催された。

地球規模のプレート活動が形作る「伊豆」に芽生えた三嶋神信仰の発展と変容を貴重な資料を交えて紹介。大室山(静岡県伊東市)の土層剥ぎ取り標本な

◆**内川隆志副館長(文学部教授)**
利島は、その姿が神への供物を捧げる場所にふさわしい「神奈備」の島。沿岸で獲れる海の幸も黒潮がもたらす「神の恵み」にほかならない。「食文化」の探求からも伊豆の成り立ちが分かるのだ。12世紀以降に伊豆で天変地異が続くが、大量に出土した鏡からは都に做った祭祀が行われたことが窺える。

◆**深澤太郎教授(研究開発推進機構)**
富賀神社(三宅島)裏手の浜からは都や有力寺社の

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

◆**吉永博彰助教(同機構)**
伊豆は3つのプレートがせめぎ合う火山活動で生まれた。自然の力と向き合った祭りの始まりを思わせる。土地・景観に根差した神は後に半島南部に遷り、さらに物流・人流の拠点となる国府(現、三嶋大社)で祀られるようになる。伊豆全体の守護神となり、源頼朝との出会いが信仰を変容させた。

人間開発学会第15回大会を開催



国学院大学人間開発学会第15回大会が11月11日にたまプラーザキャンパスで開催された。

大会は5部構成で実施され、賛助会員である永添祥多・近畿大学産業理工学部教授による講演「日本文化理解教育が学校教育にもたらす無限の可能性」を皮切りに、人間開発学部所属の教員・学生から、人間開発学という理念を基に、教育・健康・スポーツなどの観点から次々と研究発表や研究報告、成果報告が行われた。最後に前年度の学会誌掲載論文の中で、最も優れた研究の進展が期待されるとして研究奨励賞を受賞した野澤純子・同学部子ども支援学科教授から受賞記念講演が行われ、第15回大会を締めくくった。

外国語文化学科「英語落語セミナー」小噺を英語で実演



文化発信型英語力開発活動イベント「鹿鳴家英楽の英語落語セミナー」が11月22日に渋谷キャンパスで開催された。本イベントは、国学院大学文学部外国語文化学科が企画、主催して毎年開催しているもの。英語落語協会代表理事の鹿鳴家英楽師匠が講師を務め、対面開催と併せてオンライン同時配信も行われた。

英楽師匠は途中、解説をはさみながら「代書屋」と「お菊の皿」の2席を披露。分かりやすい英語で、しぐさや声色を巧みに操り演じ、会場は笑い声に包まれた。セミナー後半では、参加した学生や教員らが実際に高座に上がって小噺を実演するなどして英語落語の魅力を楽しむていた。

《多言語・多文化の交流と共生》プロジェクト講演会「詩人の翻訳」を開催



国学院大学文学部外国語文化学科が主催する《多言語・多文化の交流と共生》プロジェクトの講演会「言葉に移す、文化を映す(4)詩人の翻訳」が、12月2日に渋谷キャンパスとライブ配信のハイブリッド形式で開催された。

今回は詩人の新井高子・埼玉大学教授と、詩人で翻訳家の森山恵氏、詩人で翻訳家のジェフリー・アングルス・西ミシガン大学教授、近現代女性詩研究の菊地利奈・滋賀大学教授を講師に招いて開催した。

講演会では登壇者一人一人が、これまでに手がけた作品や、詩や翻訳の捉え方、翻訳しにくい表現などについて発表。参加者からも多くの質問が寄せられ、活発な議論が繰り広げられた。12月24日までアーカイブ配信中。

現職保育者の院友からアドバイスを受ける学生たち



幼稚園・保育園に勤める
本院の院友(卒業生)を対象とした研修会や学生との交流会が11月18日、たまプラーザキャンパスで開催された。これは文部科学省の委託事業「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の『職』の魅力向上・発信事業(幼児教育の『職』の魅力発信・向上事業)」の一環で、保育職の「職」の魅力を伝え、保育職を目指す学生の就業観を育む目的のものである。

開会にあたり、国学院大学人間開発学部子ども支援学科の学科代表・吉永安里准教授は「近年は保育職の離職率が高く、保育の道を選ばない在学生もいる。学生が保育職の魅力を再認識し、不安なく就職できるよう、経験を伝えてほしい」と語りかけた。

当日は3部構成で、第1部では18人の現職保育者の院友に対して、中野圭祐・同助教が「遊びを充実させるための環境構成と保育者の役割」と題し研修を実施。遊びを通じた教育の重要性を伝えた。中野助教は、「子どもたちの表情や姿にしっかりと目を向けて、学びのある遊びの時間を大事にし、子どもとの触れ合いに幸せを感じながら、保育者を続けてほしい」と締めくくった。

研修を受けた院友からは、「学生の頃よりも、自分の実践や経験から共感できること、学びとれることが増えていた」といった感想が寄せられた。

第2部の茶話会では、院友と同学科の教員たちが昼食をとりながら親睦を深めた。和やかな雰囲気の中、「仕事で困っていること」「保育職で良かったと思うこと」「保育職を続けるために必要な条件」などについて話し合い、情報交換。「苦労ややりがいと共有できて、自分ももっと頑張ろうと意識が高まった」などと好評で、現職保育者である院友にとっても貴重な場となった。

第3部の学生との交流会では、保育実習を控える2年生約100人を前に、院友の幼稚園教諭・安田奈央氏(平30卒・126期子支)が「幼稚園の一日と保育職の魅力」というテーマで講話。現場のリアルな話に、興味深げにうなづく学生の姿が多く見られた。

その後、学生5・6人のグループに院友が1人入り、保育実習に臨む際の心構えをアドバイス。参加した学生からは「実習の不安が取り除かれた。自分も先輩のような保育者になりたいと思った」などの感想が寄せられた。

約5時間にわたるイベントを終え、院友からは「自分自身の保育を振り返るいい機会となった。また開催してほしい」「保育の道に進みたいという学生が少しでも増えてくれるとうれしい」といった声が聞かれた。

有職故実の語は有職(識とも)と故実の二つの語から成る。故実とは儀式・作法・法令などにおける先例・典故・故例また先例とするに足る事例のことを指し、有職とはこれに通曉することや通じた人のことをいったものである。ことにち学問分野や講義名としていわれる有職故実は、こうした知識を古典研究であつたり、朝廷・武家の儀式などの研究に取り組むうえでの補助的学問として体系化したものである。そして有職故実の講義は、国学院大学でも特徴的な科目の一つとして知られている。

本学で有職故実というと鈴木敬三(四六期)がとりわけ高名である。国学院大学をでたあと、宮内省図書寮に奉職し、のち国学院高等学校の教諭となり、さらに国学院大学文学部の教授となった。絵巻物を素材に、そこに描かれた室内装飾具や服装、武具などの研究に取り組み、その大きな足跡はひとり有職故実方面ばかりでなく、古代・中世の絵画史研究にも多大な影響をおよぼした。

かれの有職故実への関心は生来のものであつたようで、とくに甲冑に関心をもち中学時代には歴史風俗画に通曉した関保之助のもとに入門して、軍陣故実の研究を志したという。のち関とは宮内省で先輩・後輩として職をともにする。なお、関は当初は正確な歴史風俗画の樹立を志していたが、乱視のために歴史画家としての筆を折り、有職故実の研究の道に進んだという経歴を有した。

また鈴木が本学に在学していた当時、有職故実の授業を受けたのは河鰭實英である。河鰭は幕末の公家三条実美の四男で、長じて河鰭家に養子入りした。宮内省図書寮(有職調査部)に奉職し、やはりのちに鈴木に職場での先輩となる。有職故実を古典の文化的研究と考えた河鰭は、とくに服飾史の方面に造詣が深かった。後半生に昭和女子大学の教員となつてからは、有職故実にかかわる史・資料を大学に寄贈し、被服参考室の整備拡充に努めた。

後年、鈴木はアジア・太平洋戦争下、宮内省図書寮で天皇実録の編纂に従事し、公家の故実も勉強

し始めたと述べているから、かれの有職故実研究者としての貌はどうやら関・河鰭らの聲に接するなかで具わつたものらしい。

さらに河鰭以前、本学で有職故実を講じたのが女子学習院教授を本務とした松本愛重である。松本は当時流行した文明史に対抗し、文化史観ともいうべき史学への志向性をもつて、風俗(唐風・常食・衣服・礼制・葬儀)の変遷を明らかにめることに学問上の重きをおいた。

本学における有職故実の開講の歴史を辿ると、どうやら近代歴史学黎明期の潮流のなかで、本邦風俗の変遷に注意を向ける人びとにより織りなされてきた系譜にゆきつくらしい。翻つて史学の立場に立脚した国学研究へのアプローチの一例として、今後、学問史的関心からも注意してみていく必要があるだろう。

研究開発推進機構助教 特別専任 比企貴之

子ども支援学科

「現職保育者院友対象研修会、現職保育者院友と学生との交流会」を実施

どについて話し合い、情報を交換。「苦労ややりがいと共有できて、自分ももっと頑張ろうと意識が高まった」などと好評で、現職保育者である院友にとっても貴重な場となった。

学問ノ道

第56回

国学院の有職故実



松本愛重



河鰭實英

第4回「観光まちづくりフォーラム」 地域活性化事例に未来への可能性探る



地域の実例をテーマにし、白熱したパネルディスカッションが展開された

国学院大学観光まちづくり学部は11月8日、第4回「観光まちづくりフォーラム」持続可能な地域の実現に向けて」を開催した。渋谷キャンパスとオンライン配信のハイブリッド方式で行い、渋谷キャンパスには自治体や観光関係者ら約130人が集まり、講演やディスカッションに熱心に聞き入った。

説明、第2部が各地で観光を軸に地域活性化などに取り組むゲストを招いてのシンポジウム・パネルディスカッションの構成。最初に針本正行学長と来賓の一般社団法人日本イコモス国内委員会の岡田保良委員長が挨拶に立ち、岡田委員長は「文化を大切にしたい本町のまちづくりに取り組む方々と一緒に歩んでいきたい。観光まちづくり学部の先生方の活躍に大いに期待している」と述べた。次いで西村幸夫同学部長・教授が学部の概要のほか、少人数教育を実践している現状などを説明した。

第2部のシンポジウムでは「地域の暮らしと観光まちづくり」をテーマにゲストの3氏が、観光を通じ地域の活性化に結び付けた事例を紹介した。まず合同会社フットパス研究所代表で、美里フットパス協会会長の井澤りり子氏が、熊本県美里町で取り組んだ自然豊かなコースを歩き、住民との交流も楽しむフットパスの仕組みづくりを説明。大事なのは「地域が主役と位置づけをし、多くの住民に参加してもらおうこと」と指摘した。次いで株式会社ツールドラック代表取締役の川口洋美氏が琵琶湖の西側地域（滋賀県大津市）での農村文化体験型の外国人向けツアー事業を紹介し、「顧客層を明確にし、地域の方々との相互信頼の構築が重要だと感じた」と振り返った。また、株式会社きつかわ



観光まちづくり学部への期待を語る岡田委員長



代表取締役の吉川真嗣氏は町屋に光を当て、歴史的な町並みに再生した新潟県村上市でのプロジェクトを説明し、「財産である伝統文化を生かし、まちの魅力を高めれば商売も繁盛し、それが行政を変えるエネルギーになる」と文化を活用した地域再生の重要性を説いた。

パネルディスカッションでは西村学部長をコーディネーターに事例を紹介した3氏、それに米ジョージタウン大学教授でもあるジョルダン・サンド特別招聘教授がコメントーターに加わり、観光を通じた持続可能なまちづくりの在り方、環境問題やコロナ禍に代表される観光ビジネスをめぐるリスクの克服策などについて意見を交換した。最後に西村学部長は「事例に登場した地域は人を育てる器としての魅力に溢れる。私たちが目指しているのは、そうした器に人を送り込んでリーダーに育て、まちづくりに貢献することだと考えている」と総括した。

国学院大学研究開発推進センターは12月1日、文学や歴史学、考古学、神道学などで多面的、多角的に古典文化を考える令和5年度「古典文化学」国際研究フォーラムを渋谷キャンパスで開催した。今回は主に中国との交流から生み出された信仰や思想などの研究報告のほか、中国における

日本研究の現状報告も行われた。会場には学内外の学生、研究者らが多数詰めかけ、独自の視点から深く掘り下げた3つの研究報告に熱心に耳を傾けていた。

最初に報告1として、研究開発推進機構長も務める笹生衛・神道文化学部教授「写真」が「東アジアの交流・交易と日本の神観の変遷」認知宗教学の視点で考えた宗像三女神の神観を中心に」と題し、人間の認知機能と関係付けた神観の本質・変容をはじめ、世界文化遺産で三女神を祀る宗像・沖ノ島の祭祀が中世以降、環境変化や交易によってどう変わっていったかなどを説明した。笹生教授はこの中で、日本列島は自然災害が多く、そこから独特な神への信仰と祭祀が成立し、また、玄界灘の沖ノ島で古代に祭祀が行われるようになった背景には海上交通における同島の役割が関係しているとの分析。10世紀の災害の激甚化で日本の神観が変質し、仏教経典に沿った国土守護の神へと転換したなどの見解を示した。

令和5年度「古典文化学」国際研究フォーラム開催 信仰や思想の経緯を解き明かす

令和5年度FD講演会 「合理的配慮」のこれからを考える



国学院大学教育開発推進機構は、専任教職員の教育力向上を目的に行う令和5年度FD（ファカルティ・ディベロップメント）講演会をオンラインと渋谷キャンパスでのハイブリッド形式で11月29日に開催した。今回は「本学における合理的配慮のこれから」というテーマで同機構の内村慶士助教が講演。

令和6年4月に改正障害者差別解消法が施行され、私立大学で合理的配慮が義務化されるにあたって、その理解を深めるために原則や事例などを紹介した。「障壁を取り除き、学生が大学で教育・学修機会が損なわれないように配慮を検討していくことが必要である」と語った。

フリーアナウンサー福澤朗氏 による文化講演会を開催



国学院大学エクステンションセンターが主催する文化講演会が11月11日に渋谷キャンパスで開催され、約200人が参加した。今年は「心をのせたコミュニケーションが人生を豊かにする」と題して、フリーアナウンサーの福澤朗氏が登壇した。

福澤氏は、コミュニケーションをキャッチボールに例え、相手がキャッチしやすいボールを投げること、すなわち相手を気遣った理解しやすい言葉で伝えることが大切だと指摘。また、相手の話を熱心に聴く「傾聴」の姿勢も必要な要素だと力説し、「他人とのコミュニケーションを楽しみ、豊かな人生を歩んでほしい」と講演を締めくくった。

法学会 弁護士4人を招き パネルディスカッションを開催



今年度の第2回法学会講演会が11月30日に渋谷キャンパスで開催され、約50人の学生が参加した。当日は、「現役弁護士たちが本音で語る『弁護士になるまで』と『弁護士になった後』のリアル」という演題のもと、中貴史氏、青木和久氏、吉田知世氏、大伍将史氏の4人の弁護士が、弁護士になるまでの勉強や生活の様子、弁護士としてのやりがい、ワークライフバランスなどについて、パネルディスカッションを行った。

参加した学生からは「本音の話が聞けて、すごく勉強になった。学んだことを生かして司法試験に向けて頑張っていきたい」などといった感想が聞かれた。

成されるため、外来文化・宗教をそのまま受け入れようとするとさまざまな問題が発生すると指摘。その解決のためには受容できないものは拒否するという擦り合わせが不可欠になるとの考えを示した。そのうえで中国の儒教、特に朱子学を日本に導入し、日本人に同化させることに力を注いだ江戸時代の異才の学者、山崎闇斎に焦点を当て闇斎の神儒兼学、さらには儒家の谷秦山が説いたとされる和魂漢才とはどういう思想なのかを解説した。

また、報告3では、かつて大学院生として本学で学んでいた中国の南開大学外国語学院副院長の王凱氏が「科研からみる中国の日本研究」というテーマで、中国の近年の文学・歴史学・哲学分野における日本・東アジアに関する研究の現状を紹介した。具体的には中国の科学研究費プロジェクトの概要や、中国での日本研究の分野や成果などを説明し、「近年は中国・韓国なども含めた東アジアを対象にした上で、その一つとして日本研究を行う傾向がある」と解説した。

令和6年度 学年暦が決定

令和6年度の学部・大学院の学年暦が決定した。詳細は下表の通り（入試関連業務を除く）。

学部学年暦	
4月 1日(月)～ 9日(火)	オリエンテーション、履修ガイダンス等
4月 2日(火)	入学式
4月10日(水)	前期授業開始
4月29日(月・祝)	祝日授業日（昭和の日）
5月 1日(水)	神殿鎮座記念祭〈休講〉
5月 2日(木)	校内整備〈休講〉
7月15日(月・祝)	祝日授業日（海の日）
7月23日(火)	前期授業終了（保育士課程以外の科目）
7月25日(木)～31日(水)	前期試験 ※保育士課程の科目は授業を実施
8月 5日(月)～ 7日(水)	追試験 ※7日は予備日
8月 8日(木)～ 9月20日(金)	夏季休暇
9月 3日(火)～ 6日(金)	サマーセッション①
9月10日(火)～13日(金)	サマーセッション②
9月21日(土)	後期授業開始
10月14日(月・祝)	祝日授業日（スポーツの日）
11月 1日(金)	国学院大学創立記念祭〈休講〉
11月 4日(月・休)	国学院大学創立記念日〈休講〉
11月 5日(火)	校内整備〈休講〉
11月23日(土・祝)	祝日授業日（勤労感謝の日）
12月23日(月)	年内授業終了
12月24日(火)～令和7年1月5日(日)	冬季休暇
1月 6日(月)	授業再開
1月18日(土)	大学入学共通テスト〈休講〉
1月20日(月)	後期授業終了（保育士課程以外の科目）
1月22日(水)～28日(火)	学年試験 ※保育士課程の科目は授業を実施
2月 5日(水)～ 7日(金)	追試験 ※7日は予備日
3月20日(木・祝)	卒業式
3月25日(火)～28日(金)	スプリングセッション

※全日補講日…5月7日(火)、7月24日(水)、10月31日(木)、11月6日(水)、令和7年1月21日(火)

大学院学年暦	
4月 1日(月)	入学式
4月 1日(月)～ 9日(火)	履修指導・オリエンテーション
4月10日(水)	前期授業開始
4月29日(月・祝)	祝日授業日（昭和の日）
5月 1日(水)	神殿鎮座記念祭〈休講〉
5月 2日(木)	校内整備〈休講〉
7月15日(月・祝)	祝日授業日（海の日）
7月23日(火)	前期授業終了
7月24日(水)～ 9月20日(金)	夏季休暇
9月 3日(火)～ 6日(金)	前期集中講義①
9月10日(火)～13日(金)	前期集中講義②
9月18日(水)	博士前期課程9月修了最終試験
9月21日(土)	後期授業開始
9月25日(水)	博士前期課程9月修了学位記授与式
10月14日(月・祝)	祝日授業日（スポーツの日）
11月 1日(金)	国学院大学創立記念祭〈休講〉
11月 4日(月・休)	国学院大学創立記念日〈休講〉
11月 5日(火)	校内整備〈休講〉
11月23日(土・祝)	祝日授業日（勤労感謝の日）
12月23日(月)	年内授業終了
12月24日(火)～令和7年1月5日(日)	冬季休暇
1月 6日(月)	授業再開
1月18日(土)	大学入学共通テスト〈休講〉
1月20日(月)	後期授業終了
1月21日(火)～24日(金)	後期集中講義①
1月27日(月)～30日(木)	後期集中講義②
2月17日(月)	【文学研究科】最終試験
2月20日(木)	【法学・経済学研究科】最終試験
3月19日(水)	学位記授与式

令和6年度国内外派遣研究員決まる

国学院大学の令和6年度国内および国外派遣研究員の研究課題、研修先、派遣期間が次の通り決定した。

【国内派遣研究員】

- ◇**文学部**…大石泰夫教授「東アジアの獅子系芸能の比較研究」国学院大学、4月1日～令和7年3月31日▷神長英輔教授「20世紀前半のロシア極東における日本観」北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、北海道大学附属図書館、東京大学附属図書館、国立国会図書館、10月1日～令和7年3月31日▷進藤久乃准教授「クリスチャン・ドートルモンとコブラの活動について」国学院大学、国学院大学図書館、国立国会図書館、国立新美術館、東京国立近代美術館、4月1日～8月31日・令和7年3月1～31日
- ◇**法学部**…本久洋一教授「90年代のアラン・シュピオの労働法学の研究」『フレデリック・ジェア著『判例解釈理論への寄与』の研究』法政大学ボアソナード記念現代法研究所、4月1日～令和7年3月31日
- ◇**経済学部**…尾田基教授「社会的責任概念の整理」

国学院大学研究室、神戸大学経済経営研究所、4月1日～令和7年3月31日▷宮下雄治教授「リテンションマーケティングにおける顧客体験と離脱行動のメカニズムに関する研究」国学院大学0909研究室、国学院大学図書館、4月1日～令和7年3月31日▷尾崎麻弥子准教授「スイスフランス語地域とフランス東部間の国境間経済（人口移動を中心に）」国学院大学0914研究室、早稲田大学図書館、4月1日～令和7年3月31日

- ◇**人間開発学部**…高山真琴教授「小学校における音楽科の初年次教育のあり方について」筑波大学附属小学校、国学院大学、他、4月1日～令和7年3月31日▷藤田大誠教授「神道・国学の近現代通史叙述に向けた研究基盤の構築」皇学館大学研究開発推進センター神道研究所（第一部門「神道思想」）、明治神宮国際神道文化研究所、神社本庁総合研究所、株式会社神社新報社、一般財団法人大阪国学院、靖國神社、橿原神宮、北海道神宮、4月1日～令和7年3月31日

【国外派遣研究員】

- ◇**文学部**…神長英輔教授「20世紀前半のロシア極東

における日本観」ウラジオストク国立大学、ロシア国立極東歴史文書館、沿海地方国立文書館、ロシア国立極東学術図書館、ハバロフスク地方国立文書館、4月1日～9月30日▷進藤久乃准教授「クリスチャン・ドートルモンとコブラの活動について」ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー、ルーヴェン）、ベルギー王立図書館内文学博物館・資料館（ブリュッセル）、コブラ美術館（オランダ、アムステルフェーン）、フランス国立図書館（フランス、パリ）、9月1日～令和7年2月28日▷渡辺俊和准教授「ダルモッタラ著『プラマーナヴィニシュチャヤ・ティーカー』擬似論証因セクションのサンスクリット語校訂テキスト作成と翻訳研究」オーストリア科学アカデミーアジア文化・思想史研究所（I K G A）、4月1日～令和7年3月31日

- ◇**事務局**…藤井哲彦企画課長「（1）本学へのダブル・ディグリー制度の導入可能性に関する調査（2）在欧神社等の現況に関する調査」ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）およびその周辺国（フランス、オランダ、サンマリノ等）、令和6年7月15日～10月14日

研究者に聞く

生活者の 目線を意識した 地域社会研究

観光まちづくり学部・松本貴文准教授

まつもと たかふみ 博士(学術)。専門は農村社会学。主な著書(共著)は
高野和良編著『新現代農山村の社会分析』学芸文社、2022年、室井
研二・山下重紀子編著『シリーズ生活構造の社会学② 社会の変容と暮らしの再生(二回)』

現場に足を運んで農村の変化を考える

できるだけ、そこで暮らしている人たちの現実感覚に沿った研究をしたい。そう願ひながら、社会学の視点から農村の地域社会を研究しています。

地域のことについて考える際、大局的な議論はもちろん大変重要なのですが、ときに生活者の目線とずれてしまうこともあります。私は農村における伝統だけでなく、変化にも着目しているのですが、そうした変化にもまた、現場に足を運ばないと見えてこないところがあります。農村の地域社会



における変化というものは、統計に表れるような高齢化や人口減少だけでなく、町内会・自治会など住民自治組織の役員や選出方から、その会費の徴収の仕方、活動の内容、さらには家族や近隣との関係など、多岐にわたります。しかも、現代の地域社会の変化を捉えるためには、空間的な集落の範囲を超えた関係性にも目を向ける必要があります。福岡県柳川市における「掘割」の保全を研究していますので、それに関する例を挙げてみます。柳川市内は元来、真水を保つのが大変困難な地域で、水を効率よくいきわたらせ利用する仕組みとして掘割が整備されてきました。掘割はその他にも災害を防いだり地下水を涵養したりするなど、さまざまな機能を果たしています。しかし、高度経済成長後、その掘割が汚染され荒廃してしまっています。現在は、市民と行政の共同による再生を経て、その保全活動が継続されています。興味深いのは、柳川市外まで広がる、多様な主体が参加するネット

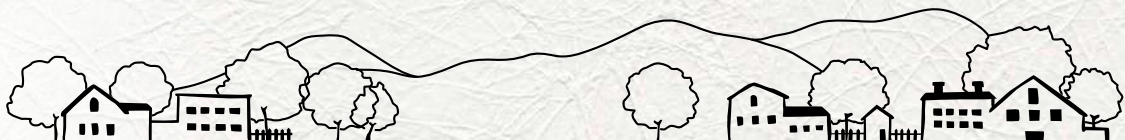
ワーク型の組織の存在です。こうした組織を通して、掘割と矢部川流域や筑後地方一円といった周辺の地域への関心と結びついていくだけでなく、ネットワークを通して市外の人たちや団体が、地域社会の単位で行っている掘割の保全活動に参加するということもみられます。

こうした例は、至る地域で枚挙にいとまがないと思います。集落のお祭りなどの地域活動に、集落を離れて暮らしているけれども、担い手として手伝いに来る若い世代の人々がいる、という話は珍しくないです。集落外から通っているという農業後継者の方からお話を聞いたこともあります。ただ、国や地方自治体が行う統計調査だけでは、こうした細かな移動や人間関係を捉えることは難しいため、このような地域の変化をすくいとらば、という面があります。そこで、私たちは現場に足を運んで、こうした具体的な生活の中での変化を、地域の人たちからお話を聞きながら考えていくことにしています。

なぜこうした視点からの研究を行うようになったかといいますと、まず私の出身地に関係があります。生まれたのは熊本県南部、球磨川流域の農村でした。小学校に入る前に熊本市内に引っ越したのですが、夏休みなどに長期で帰省していたこともあり、生まれた土地はずっと、自分の原風景となつて心に刻まれていました。祖母の手伝いで茶摘みや田植え、稲刈りなどもしていました。

ただ、大学に入ってから農村や地域社会のことを研究しようと思つたわけではありませんでした。そのころは、特に明確な意識を持つでもなく、しばらくは思想・哲学などに興味を持ちたりしていましたが、次第に現代社会のことについて考えてみたいと思うようになり、社会学を専攻することにしたのです。

そこで社会調査の実習授業を履修することになり、天草の農村・漁村調査に参加しました。数日間、同級生たちと一緒に現地泊まつて家々を訪問しながら、アンケート調査をしました。これが、本当に面白かつたんです。時には海で釣りなどしながら笑。



「危機」だけが農村のリアリティではない

私が研究者の道を歩みだして以降の時期、2000年代から2010年代にかけては、「限界集落」「地方消滅」といった言葉が話題となるなど、地方や農村の高齢化や人口減少による消滅危機が強調されるようになった時期でもありました。もちろん、過疎は重大な問題ですが、私自身は、必ずしも「危機」だけが農村のリアリティではない、と感じています。

たとえば、現地の調査やワークショップの場面で「何か困っていることはありますか」と尋ねます。すると、「若い者がおらず高齢化が進んでいる」「人口減少で困っている」といったような話はたくさん出てくるんです。しかし、もう少し具体的な日常生活のこと、たとえば、「買い物物が不便」とか、「病気になるたとき通院ができない」といったことがあるかを聞いてみると、意外にそうした困りごとはありませんという答えが返ってくることも多いので

す。

もちろん、地域ごとの深刻さには大きな違いがあるでしょうが、少なくとも外側から、統計などの数字だけをみて想像するような「危機」とは、異なるリアリティが存在していることもまたたくさんですね。私が調査員や共同研究者として参加した農村調査の結果や、他の研究者による同種の報告を見ても、「生きがい」や「地域の住み心地」について尋ねた項目において、ポジティブな回答の比率が高い傾向にあります。

「限界集落」といった捉え方ではない。かといって、生活全体を見てみれば、生きがいのある暮らしができて住み心地のよい地域という側面もある。ここには矛盾があるようですが、その背景にはさまざまな人間関係を通した支援の存在があると考えています。たとえば、地域で農道の草刈りをしなければならぬとき、高齢化

農村におけるサステイナビリティ

都市の側から見えないリアリティということでは、他にもたとえば、地域環境の管理のことを挙げることができます。里山はかつて農村の暮らしにとって必要な資源の宝庫でした。ところが、その管理を続けていくことが難しいという地域も増加しています。高齢化や人口減少だけでなく、利用するメリットが失われてきているからです。しかし、それでもなんとか管理をつづけたいという方々もおられます。お金にならないなら管理を続けるのは合理的でない

都市の側から見えないリアリティということでは、他にもたとえば、地域環境の管理のことを挙げることができます。里山はかつて農村の暮らしにとって必要な資源の宝庫でした。ところが、その管理を続けていくことが難しいという地域も増加しています。高齢化や人口減少だけでなく、利用するメリットが失われてきているからです。しかし、それでもなんとか管理をつづけたいという方々もおられます。お金にならないなら管理を続けるのは合理的でない

地域の方々とつづける話の相手になるイメージ

地域環境という観点で私が近年

関心を抱いているテーマのひとつは、再生可能エネルギーと地域づくり、というものです。私自身は決して環境問題や再生可能エネルギーの専門家ではないのですが、地方の方々がどんな動きを見せているのか実際に現地話を聞いていく中で、特に東日本大震災以降に目にするのが多くなってきたのが、再生可能エネルギーを活用した地域づくりの取り組みです。たとえば私が調査した熊本県のある農村集落では、集落の共有地の管理を続けていくために太陽光発電所を誘致し、その収益をもとに耕作放棄地の管理を再開するなどの地域づくりに取り組んでおられました。ただ、この事業は発電所を運営する企業との連携で実現したものでしたが、企業と地域社会とでは性格や目的が全く異なるので、その調整にはさまざまな課題があるようにも感じました。それでも、地域環境の新しい活用方法を見つけ、さらに、それを集落の住民同士や外との関係作りにつなげて、持続可能な地域をつくるという方向性は、とても魅力的だ

と感じました。他にも、これは海外の事例になりますが、ドイツ・バイエルン州にあるグロスバールドルフという村の取り組みは興味深いものでした。エネルギー転換の先進国であるドイツの南部、人口1000人にも満たない小さな村ですが、遊休農地のほか村のサッカースタジアムや倉庫の屋根を利用した太陽光発電、バイオガス発電とその廃熱を活用した地域熱供給、風力発電など、地域環境を活用したさまざまな再生可能エネルギー事業に取り組んでいます。しかもそうした事業が、村の経済的な収益となるだけでなく地域社会における活動の活性化に大きく関わっている。その結果、すべての住民が再生事業に投資しているわけではないのですが、しかし再生事業への関心は広く住民に共有されているんです。これはどういうことかといえます、サッカーや音楽などをはじめとして、グロスバールドルフ村には数々のクラブがあり、住民が地域社会に参加する窓口になっているんです。再生事業からの

とされるかもしれないリアリティという観点で私が近年関心を抱いているテーマのひとつは、再生可能エネルギーと地域づくり、というものです。私自身は決して環境問題や再生可能エネルギーの専門家ではないのですが、地方の方々がどんな動きを見せているのか実際に現地話を聞いていく中で、特に東日本大震災以降に目にするのが多くなってきたのが、再生可能エネルギーを活用した地域づくりの取り組みです。たとえば私が調査した熊本県のある農村集落では、集落の共有地の管理を続けていくために太陽光発電所を誘致し、その収益をもとに耕作放棄地の管理を再開するなどの地域づくりに取り組んでおられました。ただ、この事業は発電所を運営する企業との連携で実現したものでしたが、企業と地域社会とでは性格や目的が全く異なるので、その調整にはさまざまな課題があるようにも感じました。それでも、地域環境の新しい活用方法を見つけ、さらに、それを集落の住民同士や外との関係作りにつなげて、持続可能な地域をつくるという方向性は、とても魅力的だ

を持つ場合もありますし、さらに、広く社会全体のサステイナブル(持続可能)な在り方とも関わっている、ということも考える必要があると思います。たとえば、農村に住んでいる方たちが「SDGsの達成に向けて実践している」ということはあまりおっしゃらないでしょうが、しかし、普段の生活の中で続けておられることが、サステイナビリティの実現に貢献している、というケースもあることでしょう。

収益によってそうしたクラブを支援することで、住民の生活や地域社会の充実に貢献していく、という構図になっているわけです。投資している人だけが見返りを得るのではなく、皆が「われわれの事業」として自然に受け止めるものになっていくことで、事業そのものも受容される。こうした仕組みは、日本でも広く参考にできるものではないかと感じています。

これからの私自身の研究ということでは、九州出身ということも含め、これまででは西日本中心の調査を行ってきたのですが、今後は東日本の農村の暮らしについて理解を深めていければと思っています。そのときに大事にしたいのは、専門家・研究者としての視点だけでなく、地域のことを住民の方々と一緒に考えるという姿勢を持つことです。地域の方々にとっての、対話の相手になる——そうしたイメージで、今後も調査・研究に取り組んでいきたいと考えています。



が進めば負担はどんどん大きくなる。しかし、近くに住んでいる子どもがちょっと帰省して手伝ってくれる、というようなこともある。モビリティが高まり、スマートフォンなどの情報通信技術が発達した現代では、そうしたつながりを維持することも容易になっていると思います。



第19回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

折口信夫賞に盛根悠生さん(沖繩・昭和薬科大学附属高)



地域に伝わる昔話や行事、方言、郷土料理といった「身近な地域社会」に目を向け、連鎖と伝わる文化に向き合うことで高校生にできることを考えてもらうことが「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストの主旨。本学が有する伝承文化に関する資産に触れることで研究を深めてもらうことも狙っており、19回目の今回は128点が全国から寄せられた。内訳は、地域文化研究部門が団体22点・個人68点▽地域民話研究部門が団体8点・個人25点▽学校活動部門が5点。

もつとも優れた研究に贈られる折口信夫賞に地域文化研究部門・個人最優秀賞の「エイサーに学ぶ伝統文化の継承～園田青年会と宮里青年部への聞き取りを中心に～」(盛根悠生さん、沖繩・昭和薬科大学附属高2年)が選ばれたほか、愛媛の小野小町伝承にスポットを当てた松山北高郷土研究部が地域民話研究部門・団体最優秀賞を3年連続で獲得するなど各部門の最優秀賞、優秀賞が別

折口信夫賞	
「エイサーに学ぶ伝統文化の継承～園田青年会と宮里青年部への聞き取りを中心に～」 盛根悠生 (沖繩・昭和薬科大学附属高2年)	
地域文化研究部門	
団体	
優秀賞	「長良川水系におけるマガモの無双網猟に関する調査～獺師足立公成さんに学ぶ～」 (岐阜・関高地域研究部・自然科学学部)
	「念仏講まんじゅうが繋ぐ大水害の記憶」 (長崎・長崎南高新聞部)
	「神楽の伝統と大衆化」 (岡山・岡山学芸館高地域活性化ゼミ人文地理チーム)
個人	
最優秀賞	「エイサーに学ぶ伝統文化の継承～園田青年会と宮里青年部への聞き取りを中心に～」 盛根悠生 (沖繩・昭和薬科大学附属高2年)
優秀賞	「亥の子の概要と中四国地方における比較」 西山かえで (岡山・瀬戸高3年)
	「ミシャグジの正体とその信仰の変遷」 能勢海斗 (長野・須坂高3年)
地域民話研究部門	
団体	
最優秀賞	「伊予の国小野谷に残る小町伝承の謎を解く3～第二の小町伝承を求めて～」 (愛媛・松山北高郷土研究部)
優秀賞	「浜松市天竜区鹿島に伝わる不思議な金貨水神伝説の起源—なぜ『水神様が病気を担保にお金を貸す』のか—」 (静岡・浜名高史学部)
個人	
最優秀賞	「口伝と史料から紐解く杉田用水物語の史実—恩義養宗和尚の光と影—」 渡邊正太郎 (静岡・富士高1年)
優秀賞	「能恵姫伝説～龍神に見初められた姫の物語～」 佐々木ゆら (秋田・湯沢高2年)
学校活動部門	
優秀賞	『「秋月の乱」と天岩戸伝説～一枚の大絵馬が新事実をもたらす～』 (福岡・朝倉高史学部)

第27回 全国高校生創作コンテスト

文部科学大臣賞に浦和第一女子高(埼玉)



平成9年から開催されている「全国高校生創作コンテスト」は、創作活動を通じて美しい日本語の再発見と学修を目的とする全国規模のコンテストで27回目を迎えた。構想を言葉として表現する難しさなど創作の苦しさを感じつつも作品を紡ぐ喜びを志す全国の高校生から前回で2800点近くも上回る1万8214点の応募があった。内訳は、短篇小説の部1015点▽現代詩の部782点▽短歌の部6711点▽俳句の部9706点。

審査の結果、最優秀学校賞の文部科学大臣賞に浦和第一女子高(埼玉)、特別学校賞に仙台第三高(宮城)、奨励賞に西日本短期大学附属高野球部(福岡)が選ばれ、前回「ロックを止めないで」に続いて短篇小説部門を連覇した西尾実優さん(北海道・札幌啓成高3年)の「歓声.mp3」をはじめ各部門の最優秀賞、優秀賞も別表のように決まった。表彰式では石川則夫副学長の挨拶と若木育成会・森伸一会長の祝辞が代読で披露され、院友会・坂本真佐人常務理事が来賓として登壇し受賞

者を激励した。また、審査員から部門ごとに講評が伝えられた。

佳作、入選作は次の通り(敬称略)

【佳作】「おもかげ」小宮山愛実(静岡・日本大学三島高3年)▽「颯太と数学」菊地兼太郎(宮城・仙台第三高2年)▽「ネモフィラ色の空を」和田七望(東京・精華学園高(探究アカデミー東京校)3年)▽「月の光」小平通(東京・三田国際学園高2年)▽「ゾウと夢の話」船山莉紗(東京・白百合学園高3年)

【入選】「だって心臓がうるさいのだから」柚友臨(徳島・城東高2年)▽「リメイクとリスタート」續木柚乃(福岡・筑紫丘高1年)▽「辞世」高橋心花(東京・東京女子館高2年)▽「涙のフルツタルト」菊池美帆

文部科学大臣賞	
浦和第一女子高 (埼玉)	
特別学校賞	
仙台第三高 (宮城)	
奨励賞	
西日本短期大学附属高野球部 (福岡)	
短篇小説の部	
最優秀賞	「歓声.mp3」西尾実優 (北海道・札幌啓成高3年)
優秀賞	「僕の夏」水澤由奈 (東京・東京女子館高2年)
	「鏡写しのような」吉田璃子 (京都・東舞鶴高(浮島分校)2年)
現代詩の部	
最優秀賞	「白い花びら」井之川帆南 (神奈川・湘南高3年)
優秀賞	「ジンベイザメのぬいぐるみ」日名祥也 (岡山・津山工業高専2年)
	無題 酒井初音 (兵庫・長田高3年)
短歌の部	
最優秀賞	蓮沼徳仁 (東京・巣鴨高1年)
優秀賞	多久将太 高山怜花 (福岡・西日本短期大学附属高3年)
	(埼玉・浦和第一女子高2年)
俳句の部	
最優秀賞	植原拓巳 (群馬・高崎高2年)
優秀賞	加藤漢人 横溝惺哉 (兵庫・瀬高2年)
	(宮城・クラーク記念国際高(仙台キャンパス)3年)

全国から力作1万8342点 高校生コンテスト入賞作品決まる

国学院大学とスクールパートナーズ(高校生新聞社)による第27回全国高校生創作コンテスト(協賛・国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部、後援…文部科学省・全国高等学校長協会・全国高等学校国語教育研究連合会・日本進路指導協会と、第19回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト(協賛…国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部、後援…文部科学省・全国高等学校長協会・日本進路指導協会)の入賞作品が決まり、12月3日に渋谷キャンパスで表彰式が行われた。両コンテストには全国から1万8342点の力作が寄せられた。

※両コンテスト入賞作品の詳細は学報2月号に掲載予定

表(敬称略)のように決まった。表彰式では石川則夫副学長の挨拶(代読)と若木育成会・森伸一会長(代読)、院友会・坂本真佐人常務理事の来賓祝辞が披露された後、各部門最優秀賞の受賞者が研究内容を発表した。

佳作、入選は次の通り(敬称略)。

【佳作】「石鐘黒茶伝承」SELプロジェクトの取組(愛媛・西条農業高石鐘黒茶SELプロジェクトチーム)

「鳥獣被害対策から地域の文化継承」高校生ハンターの挑戦」(熊本・八代農業高(泉分校)地域探求

【佳作】「伝統行事を継承していくために私たちにできることは」伝承された行事と伝承されなかった行事の違いから考える」伊藤芹(東京・見華学園高2年)▽「大島紬の伝承」信島拓志(鹿児島・大島高3年)

【佳作】「和泉地区発・青葉の笛をつなぐ」義平とおみつ 乱世に咲いた恋」(福岡・大野高JRC「結」)▽「紀南地域における河童伝承」(和歌山・田辺高河童倶楽部)

【審査員〓敬称略】小川直之(本学名誉教授)▽大石泰夫(本学文学部教授)▽八木橋伸浩(玉川大学名誉教授)▽伊藤龍平(本学文学部教授)▽飯倉義之(本学文学部教授)▽高橋大助(本学文学部教授)▽服部比呂美(本学文学部准教授)

奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【現代詩の部】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

【佳作】「あのこの背中」鈴木南美(愛知・聖霊高2年)▽「映画館」山口莉緒(広島・AICJ高1年)▽「コンジニ」小田彩葉(岡山・津山工業高専1年)▽「キャサリン」小野英美理(東京・田園調布雙葉高2年)▽「かさに穴があった」朴可然(長野・上田西高3年)

【入選】「こよみの上で踊る」泉まいこ(神奈川・湘南高3年)▽「君の一射は鳴り響く」遠藤優璃(福島・葵高2年)▽「自由」花田光(広島・店島敦智学園高2年)▽「和菓子店の紡ぎ」高橋和奈(北海道・釧路明輝高3年)▽「夏の始まり」小堺昂(神奈川・慶応義塾高3年)▽「花が咲くとき」神原美海(東京・日谷高2年)▽「追想の彼方へ」浜田恭華(三重・青山高1年)

年)▽弓削千賀子(鹿児島・志學館高等部2年)▽平良航暉(沖繩・八重山高2年)

【入選】前川菜々子(岐阜・多治見西高1年)▽川藤隆也(宮城・仙台第三高2年)▽轟木琉榎(福岡・西日本短期大学附属高3年)▽曹永武(東京・東京朝鮮中高級学校2年)▽谷口結子(岐阜・吉城高3年)▽中川果音(石川・松任高3年)▽井阪龍之助(三重・松阪商業高2年)▽榎下小春(神奈川・光陵高2年)▽仲本拓桃(沖繩・名護高3年)▽森本信太(東京・産業技術高専(荒川キャンパス)3年)

【俳句の部】

【佳作】河野律(埼玉・浦和第一女子高1年)▽津村日奈子(神奈川・慶応義塾湘南藤沢高専部1年)▽瀧本小羽(岐阜・飛騨神岡高1年)▽山崎琴

主催者挨拶：祝辞(要旨)

◆全国高校生創作コンテスト

◆「伝承文化に学ぶ」コンテスト

【主催者挨拶】石川則夫副学長

自らの言葉で自己表現への想いを、日本文学の様式に組み込む努力は貴重で、日本語の潜在能力の偉大さを感じる。文学の諸形式を自らの表現、言葉・文章としてアウトプットする創作表現は貴重な経験だ。さらに自分の言葉を磨き上げてもらいたい。

【祝辞】若木育成会・森伸一会長

60校ほど応募校が増え、創作活動へ熱心に取り組む高校生が増えたことは喜ばしい。文字による自己表現はスポーツや音楽とは別な醍醐味がある。皆さんの持つ創作の翼がより大きく、より力強くなり、魅力的な作品が生まれることを期待する。

【祝辞】院友会・坂本真佐人常務理事

若い皆さんの感性、社会を見る鋭い視点、自身の経験を通じた場面に想像させる表現など、いずれも創作にかける熱意と工夫を感じている。人工知能が注目されているが、皆さんの作品には自分らしさが表現されており、人間の熱を感じている。

【祝辞】院友会・坂本真佐人常務理事

継続して調査に取り組んできた作品もあり、地域への関心度の高さを再認識した。国内の生活は平穏を取り戻してきたが、国内外に目を向けると厳しい状況だ。皆さんも活動を通じて文化を学び継承する大切さを知り、研究を継続することを期待したい。

【主催者挨拶】石川則夫副学長

「地域の伝承文化を学ぶ」ことは大きな意義がある。皆さんの調査・研究成果が源泉となり、地域活性化や魅力度向上につながると信じている。地域の貴重な財産となるだろう。より多くの方々に皆さんの成果が紹介されることを望む。

【祝辞】院友会・坂本真佐人常務理事

継続して調査に取り組んできた作品もあり、地域への関心度の高さを再認識した。国内の生活は平穏を取り戻してきたが、国内外に目を向けると厳しい状況だ。皆さんも活動を通じて文化を学び継承する大切さを知り、研究を継続することを期待したい。

最優秀賞受賞者 喜びの声

短篇小説の部

西尾実優さん (北海道・札幌啓成高)

昨年に引き続き、このような賞を頂けて嬉しい限りです。この作品は部活動の大会に向けてラジオドラマを作成した経験が元になっています。引退を控えて、最初で最後のドラマを作成するに当たって「私が脚本を書く」と言い出せたのは、コンクールを経て得られた少しの自信が大きかったように思います。進學先でも趣味として続けていきたいら嬉しいですね。

現代詩の部

井之川帆南さん (神奈川・湘南高)

受賞を聞いたとき、喜びで叫んでしまいました。小さいころから創作していたのですが、詩作は高校から始めたので、最後の年でこのような賞をいただくことに嬉しんでいます。

短歌の部

蓮沼徳仁さん (東京・巣鴨高)

初めていただいた大きな賞で、嬉しいよりも驚きの方が多いです。いまだに信じられませんが、先生方や友人達におめでとうと祝福され、やっと思感が湧いてきました。

俳句の部

植原拓巳さん (群馬・高崎高)

このような賞をいただき、誠にありがとうございます。この賞が私にとって初の賞となります。受賞報告を受けてからしばらく経ちますが、いまだに賞をいただいたことに現実味がありません。本当にありがとうございます。

地域文化研究部門(団体)

盛根悠生さん (沖繩・昭和薬科大学附属高)

「手くいかないことが多く、何度か応募を諦めかけましたが、最後まで頑張ってきた」と思いました。私の地元・沖縄市は特にエイサーが盛んな地域ですが歴史や背景はほとんど知りませんでした。今回の調査では実際にエイサーに関わる方々の話を聞き、さまざまな歴史や多くの人の想いが詰まっていると感じることができました。

地域民話研究部門(個人)

渡邊正太郎さん (静岡・富士高)

祖父母が杉田用水の石碑について私に質問してきたのですが、石碑の存在すら知らず回答できなかったことが調査のきっかけです。史料探しのコツがつかめ、古文書の読解能力が上がり、石造文化財の文字が読めるようになって成長したと感じました。伝承文化は自分の地域のアイデンティティを失わないようにするためにも大切だと考えます。

今回のコンテスト入賞作品を掲載した「全国高校生創作コンテスト入賞作品集」「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト入賞作品集」を来年2月下旬に刊行の予定です。両作品集は無料配布いたします。発送をご希望の場合は、希望部数と送付先をご連絡ください。

問 総合企画部広報課 (☎03・5466・0130)

高校生向けコンテスト「入賞作品集」を制作中

i インフォダイジエス ト

 … 在学生  … 保証人  … 卒業生  … 一般  … 受験生

 内容  日にち  時間  場所  対象  定員  料金  申し込み  問い合わせ

大学からのお知らせ

年末年始の事務休止

内12月26日(火)から令和6年1月5日(金)まで、渋谷・たまプラーザの全事務室は閉室となります。同期間中は、証明書自動発行機の利用もできません。授業開始は1月6日(土)です。

大学入学試験に伴う入校制限

内令和6年度大学入学共通テストおよび本学一般選抜入学試験実施のため、会場となるキャンパスへの入校を別表の通りに制限します。なお、該当期間は課外活動を行うことができません。

令和6年度大学院春季入学試験

内国学院大学大学院博士前期課程および同後期課程では、別表の日程で令和6年度春季入試を実施します。

問大学院事務課 (☎03・5466・0142)

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

最終面接対策講座

内最終面接では、それまでの面接とは見られるポイントが変わってきます。また、実践で練習することが難しいです。この講座では、実際に最終面接の面接官経験が豊富な方を講師としてお招きし、最終面接で企業が見るポイント、対策方法やよくある質問例などをお伝えします。内定を得るためには最終面接の突破が必須です。この講座に参加して対策しましょう。

日1月17日(水)16時10分～17時40分 (予定)

対3年生

第3回求人フェア

内新卒応援ハローワークや専門の人材紹介企業による対面の求人紹介イベントです。皆さんの就職活動状況に応じた情報提供と個人面談を実施します。

日1月15日(月)13時～16時10分

対4年生

◆大学入学共通テスト

日	時	立入制限区域など
	終日	若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
1月12日(金) 入学試験準備日	16時10分以降	130周年記念5号館
	17時50分以降	120周年記念2号館
	19時30分以降	120周年記念1号館
	21時以降	3号館、総合学修館（6号館）
1月13日(土)・14日(日) 入学試験当日	終日	若木タワー、120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）

※学術メディアセンター、百周年記念館（地下1階、1～3階）、国際交流センターは立入制限区域ではありません
※1月12日(金)17時から14日(日)まで国際交流会館と院友会館の通用門は封鎖

◆本学一般選抜入学試験

日		時	立入制限区域など
A日程	2月1日(木) 入学試験準備日	終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
		17時以降	総合学修館（6号館）
		19時30分以降	学術メディアセンター
B日程	2月2日(金)～4日(日) 入学試験当日	終日	若木タワー、120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、総合学修館（6号館）、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）、学術メディアセンター（博物館を除く）、若木会館
		終日	120周年記念1・2号館、3号館、130周年記念5号館、若木会館、百周年記念館（地下2階、4階）
		17時以降	総合学修館（6号館）
A日程	2月1日(木) 入学試験準備日	14時以降	1・2・3・5号館、Sports Square 1・3、若木21
		終日	1・2・3・5号館、Sports Square 1・3、若木21
		終日	1・2・3・5号館、Sports Square 1・3、若木21

※2月1日(木)17時～4日(日)、3月1日(金)17時～2日(土)：国際交流会館と院友会館の通用門は封鎖

大学院 令和6年度春季入学試験日程

研究科		入試区分	専攻	募集人員	願書受付期間	試験日・合否発送日	手続期間	
文学	前期	一般	神道学・宗教学	7名	令和6年 1月10日(水) ～17日(水) (共通テスト 1月13日(土)除く)	【試験日】 2月13日(火) 【合否発送】 2月19日(月)	2月24日(土) ～3月4日(月) (学部入試日 3月2日(土)除く)	
			文学	9名				
			史学	9名				
		外国人	神道学・宗教学	若干名				
			文学					
			史学					
		学内成績選考	神道学・宗教学					
			文学					
			史学					
	学外成績選考	文学						
		社会人	神道学・宗教学					
			文学					
	史学							
		後期	一般	神道学・宗教学	3名			
				文学	8名			
	史学			8名				
外国人	神道学・宗教学		若干名					
	文学							
	史学							
社会人	神道学・宗教学							
	文学							
	史学							
法学	前期	一般		法律学	5名	令和6年 1月15日(月) ～22日(月) (共通テスト 1月13日(土)除く)	【試験日】 2月24日(土) 【合否発送】 2月27日(火)	2月29日(木) ～3月5日(火) (学部入試日 3月2日(土)除く)
		学内論文選考						
		学内成績選考						
		外国人						
		社会人						
	後期	一般	5名					
		外国人	若干名					
		経済学	前期	一般	経済学			
外国人	若干名							
社会人								
学内推薦								
後期	一般	5名						
外国人	若干名							
社会人								



3位入賞を果たした剣道部男子
(同部提供)

剣道部

全日本学生剣道優勝大会3位

学生剣道の男子団体日本一を決める全国大会、第71回全日本学生剣道優勝大会が11月5日にAsueアリーナ大阪（大阪市港区）で開催された。国学院大学剣道部男子は激戦の末、第1回大会以来70年ぶりの3位入賞の快挙を果たした。同大会は全国の大学の中から各地域の予選を勝ち抜いた64大学が参加。7人制による勝者数・総本数で勝敗を決するトーナメント方式で実施された。1回戦の大阪体育大学戦で

は、大将の永溪天夢選手(神文4)が2本を奪い逆転勝利。2回戦は、接戦の末に慶応義塾大学を下した。3回戦では変則的な試合運びを得意とする摂南大学を、冷静に対処しながら副将・大将の活躍で破った。準々決勝の明治大学戦では、前衛陣が本来の力を発揮し、5番手の三将の時点で勝負が決した。準決勝では、日本体育大学に0－5と敗れたが、同部男子は3位入賞となった。優勝は、法政大学で30年ぶり5度目。

ドリル競技部 第23回全日本チアダンス選手権大会

「大学生編成Pom部門Small」で1位

(一社)日本チアダンス協会が主催するチアダンスの日本一を決める大会「ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2023－第23回全日本チアダンス選手権大会決勝大会」が11月26日に東京体育館（東京都渋谷区）で開催された。国学院大学ドリル競

技部SEALSは、「大学生編成Pom部門Small」において結成史上初の1位となった。同大会は地区予選を勝ち抜いたハイレベルなチームが集結する全国大会となる。Pom部門は、演技の大部分でメンバーがポンポンを使用。ポンポンによる視覚的効果を取り入れ、正確

にシンクロしたモーションでチームを“ひとつ”に見せることが求められる。同部は躍動感あふれる演技で並み居る強豪を抑え、1位の快挙を成し遂げた。

「All Japan Cheerleading&Dance Championship USA School&College Nationals」においては「大学編成



見事1位となったドリル競技部
SEALS(同部提供)

Pom部門 Small」で4連覇を成し遂げており、今も5連覇に向けてチーム一丸となって練習に励んでいる。

神明奉仕で縁をつなげる神職に

第13回観月祭学生代表

三村優徳さん（神文3・瑞玉會委員長）



渋谷キャンパスで10月28日に行われた観月祭。十五夜の「中秋観月」の伝統に由来するもので、管弦の雅な音色や厳かな祭祀舞などが観客を魅了した。同祭は、100人以上の学生が主体となり開催。13回目となった今回、学生代表の大役を務めたのは三村優徳さん（神文3・瑞玉會委員長）だ。

三村さんが代表となった当初、「代表なんて大丈夫？」と先輩から心配されたそう。それもそのはず、三村さんは祭式や雅楽、舞などの作法の修得を目指して活動する瑞玉會の委員長と禮典委員も務める。会の運営や後輩の指導に加え、10、11月は学内祭典への奉仕など、活動のピークを迎える。負担が大きすぎると心配されたのだ。それでも立候補したのは、先輩の影響。「昨年も瑞玉會の先輩が観月祭の代表でした。コロナ禍からの再出発という中で、代表を務めあげた姿に憧れたんです」と三村さん。

同祭は、神道系の6部会が半年間かけ準備して臨

む。本番が近づくと、学生たちも一層熱が入り、意見がぶつかることも増えた。「それぞれの立場から、より良いものをとという気持ちはわかります。時に意見を違えても、最後は学生一体になって、後悔なく、楽しく終われるようにしたかった」と、各部会が納得できるように調整することを心がけた。前日の最終リハーサル後は、不安だったという。演目の完成度に対してではなく、「稽古を重ねてきたみんなが無事に披露できるように」との不安だった。迎えた当日、全ての演目が終わり、会場から拍手が溢れた。「みんなが成果を出せて良かった」とほっとしつつも、「片付けが終わるまで気を抜くなよと自分を戒めました」と笑う。

代表として教員や職員と関わることで、全体を俯瞰する目線や、臨機応変な対応の重要性を実感した。演者から意見が寄せられた時に、「こうすればうまくいくかな」「これ以上は変えないほうがいいな」などの判断がスムーズにできるようになったそ

うだ。学生間の調整役として、自分の考えを分かりやすく言語化することや、相手の意見を尊重する大切さも知った。意見調整の最中に、「あ、自分をアップデートできている」と感じたことも。

将来は、神職として奉職を希望している三村さん。最初から神職志望ではなかったそう。瑞玉會への入会も、大学で出会った友人が見学に行くというので、一緒に行ったらそのまま2人で入会。同会の活動や授業などに取り組むうち、神明奉仕の気持ちが芽生えてきた。「先生や友人たちとの縁で、人生が変わった。神職を目指すなんて3年前は思ってもみなかった」と笑う。

「神明奉仕にはげみ、神様と訪れる人たち、あるいは集う人同士の縁をつなげたい。それが、自分に縁をくれた人たちに恩返しできる方法だと思うし、そんな神職になることが人生の目標です」と三村さんは真剣なまなざしで語ってくれた。

内定者アドバイザー

満足いく就活へ

実体験で得た秘訣や思いを後輩に伝えたい

柳川さん、中津さん、最上さん、保坂さん、石村さん（写真左から）

テーブルに向き合った先輩の話に真剣に耳を傾け、質問が次々に繰り出される…渋谷キャンパス・キャリアサポート課前のスペースで、連日こんな光景が繰り広げられている。大手・優良企業や省庁などの内定を得た4年生が「内定者アドバイザー」として、就活に取り組む下級生への指導・支援にあたっている。

大学生の新卒採用には追い風が吹いているものの、優良企業から内定を得るのは依然として厳しく、より入念な下調べや準備をして臨む必要に迫られている。従って、リアルな情報が得られ、本音で親身になって個別に相談に応じてくれる内定者アドバイザーが果たす役割は大きい。

内定者アドバイザーは総勢約30人。平日の午後、毎日6人ほどが予約なしで相談に応じられるよう待機している。就活支援策は、企業セミナーや合同説明会をはじめ、自己PRや面接対策といった各種講座、優良企業を網羅した独自の企業データブック「企業大研究」の配布などと多岐にわたる。そうした中でも内定者アドバイザー制度に関しては、支援された学生が、就職活動を終えてアドバイザーの側に回って同じように支援するという好循環も生まれているという。

内定者アドバイザーの助言は一つの形に収まらずに実に多様だ。航空会社の客室乗務職に内定した中津新菜さん（史4）は早い段階から志望先を絞り込み、大学のエアライン講座も受講した。「大きかったのは同じ目標を持った仲間に出会えたことで、最後までやり遂げることができました」と切磋琢磨の大切さと呼びかける。難関の国家公務員総合職試験を突破し、中央省庁への内定が決まった最上奏羽さん（法4）も公務員を目標にK-PLASの講座を受講するなどの努力を重ねてきた。官庁訪問に際しては先輩からの助言も受け、「いろいろな人と会って会話をし、思考の柔軟性を広げることが重要だと感じました」と説く。

就活の過程で高まった情熱を大切にすべきと強調するアドバイザーも多い。食品会社に内定した保坂駿介さん（日文4）は「インターンシップなどを通じその企業や製品、社員への熱い思いが沸き上がり、それを大事にし、内定を目指し突き進みました」と明快だ。証券会社に内定した石村隼太郎さん（法4）の場合、企業説明会への参加を重ね、あえて個人の能力が試される厳しい世界に身を置くことを決断した。その決意を裏打ちするかのように「就活に限らず授業や部活、アルバイトなどと何事にも



全力で取り組むことが大事だと感じています」と指摘する。また、電機メーカーに内定した柳川航輝さん（経営4）は、やりがいを念頭に事業の社会的な重要度などから志望企業を絞り込んだ。「3年次の就活の時に内定者アドバイザーに相談し、その助言から自分の持ち味をいかに的確に伝えられるかを研究して、実践したことが好結果につながりました」と振り返る。相談をした学生からも「エントリーシートの書き方のポイントなど新たな気づきがありました」といった声が聞かれ、内定者アドバイザーのアドバイスや思いが後輩たちの背中を押していることは確実のようだ。

K:DNA——創立142年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部

箱根駅伝 エントリー選手紹介

箱根駅伝に出場する全23チームのエントリー選手16人が12月11日、関東学生陸上競技連盟から発表された。国学院大学陸上競技部のエントリー選手を大会への意気込みとともに紹介する。

1面に関連記事

エントリー選手一覧（敬称略）



伊地知 賢造（健体4）
4年間の集大成となる大会なので成長を見せられるような走りをしたい。優勝を目指しチーム一丸となって戦っていこうと思います。

主将



平林 清澄（経営3）
この1年で冷静な、かつ攻めの走りができるようになりたいです。自分の持てる力を精いっぱい出せる準備をし、当日最高のパフォーマンスを発揮します。



嘉数 純平（健体2）
チーム目標である、“てっぺん”を獲るためにここまで練習してきたので優勝するために全てをぶつけたいと思います。



田中 愛睦（経1）
たくさんの方々に支えられての舞台に立っていることを忘れず、「自分も頑張ろう」。そう思ってもらえるよう気迫のある走りをします。



瀬尾 秀介（経営4）
3回目のエントリー入りとなりました。これまではチーム成績への貢献があまりできていなかったのですが、今回は“自身の走り”で表彰台を勝ち取ります。



山本 歩夢（健体3）
出雲駅伝と全日本駅伝の借りを箱根駅伝で返したいです。区間賞を取るような走り方でチームに貢献していきたいです。



鎌田 匠馬（経2）
小学校の卒業文集に箱根駅伝に出たいと書いていたくらい憧れの舞台なので、出走できたら区間賞を取ってチーム目標の表彰台に導けるように頑張ります。



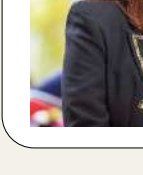
辻原 輝（史1）
出雲、全日本とメンバー入りすることができず、この箱根駅伝だけは絶対に走りたいと思ってきました。必ずチームを優勝に導く走りをします。



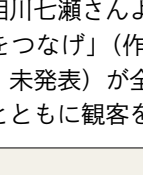
板垣 俊佑（法3）
箱根は小さい頃からの憧れの大会でした。1年間を通してのチーム目標である「三大駅伝表彰台」を達成するために、全力を尽くして最後まで走り抜けます。



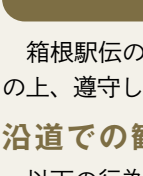
青木 瑠都（健体2）
箱根駅伝は前回の悔しい走りから1年間ずっと目指してきた場所です。リベンジの走りです。皆さんの目が飛び出ちゃうくらいの快走をします。



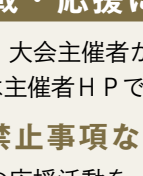
高山 豪起（法2）
得意のスタミナをさらに磨くことができた。前は緊張してしまい、自分の走りができなかったが、今回は主力として堂々とした走りをしたいです。



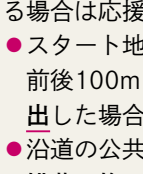
野中 恒亨（健体1）
どんな区間であろうと弱気になることなく1年生らしい勢いのある攻めの走りをして、区間賞を取ってチームに貢献します。



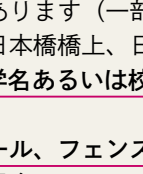
佐藤 快成（健体3）
この1年間、自分の得意な区間で走るために必要なことをしてきました。苦しい場面が多いと思いますが応援よろしくお願いします！



上原 琉翔（健体2）
第100回の記念大会で、チーム目標である三大駅伝表彰台を目指し、“てっぺん”を取るつもりでチーム全員駅伝で頑張っていきます！



後村 光星（健体1）
初めてのエントリーとなるので不安もありますが、しっかりとチームに流れを呼び込めるようなインパクトのある走りをできるように頑張ります。



吉田 蔵之介（経1）
与えられた自分の役割をしっかりと果たし、個人では区間賞を取りチームに流れを作り、箱根駅伝初優勝に貢献したいです。

歌手の相川七瀬さんが、壮行会で応援ソングを熱唱



12月15日に、渋谷キャンパスで行われた第100回東京箱根間往復大学駅伝競走の壮行会にて、国学院大学神道文化学部の4年生でもある歌手の相川七瀬さんより、オリジナルの応援ソング「櫓をつなげ」（作詞者：相川七瀬・作曲者：コンプ、未発表）が全学応援団の応援、吹奏楽部の演奏とともに観客を圧倒する歌唱力で披露され、選手たちに大きなエールが送られる形となった。また、相川さんより選手たちに「これまでの1年間の積み重ねが箱根駅伝で発揮できることを心から祈っています」といった応援メッセージが送られ、選手たちもそれに応えるようにガッツポーズ取るなどし、来年の箱根駅伝に向けて気合十分な様子であった。

沿道での観戦・応援に関する注意事項

箱根駅伝の観戦・応援にあたっては、大会主催者が要望する次の「お願い」をご確認の上、遵守してください。最新の内容は主催者HPでご確認ください（二次元コード）。



沿道での観戦・応援に関する禁止事項など（主催者HP・応援実施要項から）

- 以下の行為が確認された場合は以後の応援活動を一切禁止します。また、次回大会以降に参加する場合は応援活動が制限される場合があります（一部抜粋）。
 - スタート地点、フィニッシュ地点、日本橋橋上、日本橋北詰交差点、京橋交差点付近、中継所の前後100m以内での校旗、部旗、大学名あるいは校章などを表示する横幕、小旗、のぼり等を掲出した場合。
 - 沿道の公共物である電柱やガードレール、フェンス、街路樹等に横幕、旗、のぼり等をくくり付けた場合。
- ※小旗や、のぼりの掲出は極力控えるように



復路 1月3日(水)
(箱根芦ノ湖→大手町)

往路 1月2日(火)
(大手町→箱根芦ノ湖)

平塚⇄戸塚

県道30号タクトホーム(藤沢店)付近

3区	9:55集合	10:25頃通過予定
8区	9:50集合	10:20頃通過予定

鶴見⇄大手町

J R・京浜急行品川駅前

1区	7:50集合	8:20頃通過予定
10区	12:30集合	13:00頃通過予定

スタート・ゴール付近: 大手町・国学院大学指定場所

- スタート[大手センタービル前]
- ゴール[第一生命日比谷ファースト前]

小田原⇄平塚

J R 国府津駅前

4区	11:15集合	11:45頃通過予定
7区	8:50集合	9:20頃通過予定

戸塚⇄鶴見

京浜急行新子安駅前

2区	8:45集合	9:15頃通過予定
9区	11:30集合	12:00頃通過予定

箱根⇄小田原

箱根登山鉄道箱根湯本駅前

5区	11:50集合	12:20頃通過予定
6区	8:20集合	8:50頃通過予定